

2018年度 事業報告書

2018年 4月 1日から

2019年 3月31日まで

学校法人 サント・アンゼロ学院

1. 法人の概要

名 称 学校法人サント・アンゼロ学院（昭和40年4月13日法人設立）

代表者 理事長 砂場 由行

住 所 吹田市古江台1丁目17番1号

電 話 06-6872-3230

FAX 06-6872-4027

設置する学校

住 所 吹田市古江台1丁目17番1号

名 称 カトリックさゆり幼稚園

役 員 理 事 6名 監 事 2名 評議員 13名

理事会 4回開催 評議員会 2回開催

職 員 34名

2. 事業の概要

（ カトリックさゆり幼稚園 ）

《教育方針》

設立母体であるカトリック守護の天使の姉妹修道会の教育方針に沿って、園と家庭が一体となって幼児の基本的な生活習慣と、望ましい人間形成の基礎づくりを温かい宗教的雰囲気の中で育成することを目的としています。教育理念の基本である、「素直な心」「思いやりの心」を育成し、最後まで「がんばる」ということを大切にして、その達成に取り組んでいます。

《教育内容》

基本的な生活習慣を身につけ、絵画製作、音楽、言葉、体操あそびをバランスよく保育に取り入れ、自分の力で行動することの充実感を味わいます。お祈り、聖歌、宗教的なお話を通して宗教的情操を養い、神様から頂いているたくさんのお恵みを知り、感謝の心を育てます。子ども達は愛されて生まれきたかけがえのない存在であり、「あなたのままでいい」と一人ひとりの存在を認め合う温かい環境の中で、子ども達をしっかりと受け止めて、お互いに認め合い、受け入れられることで、神の愛・喜びを感じる人間を育てます。様々な活動に興味や関心を持ち、積極的に取り組み、将来どんな試練にも立ち向かい、乗り越えていく「生きる力」を養います。

《目的・計画》

子どもは一人ひとり大きな能力をもってこの世に生まれ、愛されて育った子どもは自己を肯定し、他者を愛し、尊重します。そして、一人ひとりの子どもたちが愛され、「あなたが大好き」「あなたはとっても大切な人」と感じられるように、世界中でたった一人しかいない自分に気づき、個性豊かに自信をもって生きていくことができるように、私たち全教職員は心からの愛情を一人ひとりに注ぎ、日々の保育に取り組めます。

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	5	125	5	175	5	175	15	475
2017年度	4	119	4	132	4	131	12	382
2018年度	4	118	4	120	4	133	12	371
2019年度	4	121	4	120	4	120	12	361

《保育時間》

月～金曜日 午前9時30分～午後2時

土曜日 休園

《納付金》

保育料 3歳児 年額300,000円（12分割均等納付）

4・5歳児 年額276,000円（12分割均等納付）

バス維持費 月額 3,000円

《入園時の費用》

入園料 3歳児 80,000円

4歳児 70,000円

5歳児 60,000円（9月入園者30,000円）

検定費 3,000円

バス入会金 3,000円

《預り保育の内容及び費用》

☆通常保育日

早朝保育 8:00～ 8:30 200円

午前保育 11:30～ 15:30 800円

11:30～ 17:00 1,000円

11:30～ 18:00 1,400円

1日保育 14:00～ 17:00 800円

14:00～ 18:00 1,200円

☆長期休暇 8:00～ 17:00 2,500円

8:00～ 18:00 3,000円

《行事实施状況》

遠足（春・秋・年度末）、参観日、聖母の祝日、お泊まり会、プール開き、七夕さま、教会訪問、守護の天使お祝い、運動会、おいもほり、七五三お祝い、さゆりまつり、クリスマスお祝い会、おもちつき大会、お別れ会

《施設関係》

園地面積 3,617㎡ 運動場面積 1,360㎡

458㎡のホール、預かり保育専用保育室を完備

地震被害補修工事（本館、保育棟壁、ホール天井、塀）トイレ・シャワー室工事実施。園庭遊具の保守・点検を実施。

《設備関係》

パソコン5台取得。

《事業報告》

2018年度の事業は、前年度より園児数が11名減少したものの、保護者の協力を得て役職員の真摯な努力により、着実に運営することができた。

2015年度4月より子ども子育て支援新制度がスタートしたが、新制度移行が進み、2019年度は213園が私学助成で事業を継続する予定である。当園は、私学助成を継続している。

第198回国会において「子ども・子育て支援法の一部を改正する法律」が提出され、5月10日成立した。10月より幼児教育の無償化が実施される。詳細は、法案成立から準備期間が短い、吹田市の説明会を待たなければならない。無償化が実施されると、保護者の選択幅が広まり「教育内容」と「預かり保育の時間」にスポットが当たり、当園としても、一層の努力を払うこととする。

一方、教職員採用が極めて厳しい状況になっているので、安定した教員組織を維持することができる園が、持続可能な園であり、運営の最大のテーマになってきている。

また、政府は、2017年に「2020年までに有給休暇の取得率を70%とする。」の数値目標に掲げたが、目標からほど遠い結果、2019年4月労働基準法改正により「全ての企業において、年10日以上の有給休暇が付与される労働者に対して、有給休暇の日数のうち年5日については、使用者が時季を指定して取得させることが必要になった。」正職員はもとより、パートタイマー・契約職員の実働時間の確保が新たな問題として浮上してきている。

更に、経団連と大学とで、新卒一括採用以外の方式として、2022年度より多様な採用形態に、通年採用の実施が合意された。現在でもインターンシップが採用のツールになってきているのが、一層進むことになる。

また、養成校においては、自ら生き残りを図りながら如何に学生を確保するかが大きな課題になっているが、単独での頑張りには限界があるので、幼稚園・認定こども園・保育園が共同で教育・保育のやりがいと楽しさを盛り上げていく必要がある。「有給インターンシップ」、その前にアルバイトとして園の日常の営みを実際に体験してもらうことを通じて採用を考えていく方法を検討する。

以上のことを踏まえ、当園としては、幼児教育の無償化へ理解を深め、事業継続を諮るため、地域の乳幼児数及び教職員採用計画を思考し、5年後の事業、中期事業計画を作成する。また、監督官庁の調査に、しっかりと対応出来るよう、事務組織を見直し、事務管理体制の確立に努める。

自己評価については、確実に実施し公表している。また、その自己評価の内容を、学校関係者評価委員会で検討し内容を別紙のとおりまとめた。内容を精査・検討し新年度の評価項目を策定することとした。

財務面では、事業活動収支計算書より、教育活動収入計が232,929千円（対前年比9.04%UP、213,615千円）、教育活動支出計

241,031千円（対前年比15.02%UP、209,553千円）、教育活動収支差額▲8,102千円（前年度、4,061千円）、経常収支差額比率▲3.09%（前年度2.30%）と厳しい経営状況になった。

また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、58.80%（前年度61.06%）となり、前年度より低下した。翌年度繰越支払資金は、当年度の保持すべき資金（第4号基本金）の額を相当上回る額の支払資金を保持できているので、資金繰りは問題ない。

新年度、園児数は前年度より10名減少するので、慎重に対応する。

また、当年度の卒園児は120名であるので、120名以上の園児確保を目指す。

3. 財務状況

別紙参照。